



飯地小学校 HP

夢をもち、懸命に生きる子 ～進んで学ぶ子・思いやりのある子・元気な子～

水に親しみ、水に感謝した6月

校長 原田 三千代

夏がやってきました。気温の高い地区の学校では、すでに塩分タブレットが下校前に配られたり、水分補給用のウォータークーラーが設置されたりと、今年も予想される「酷暑の夏」に向けての準備が始まっているようです。飯地小でも「WBGT（熱中症指数）」の測定が始まりました。ありがたいことに飯地高原の空気はまだ爽やかですが、毎年更新されていく「高温」に備え、飯地小でも子どもたちの安全を第一に生活していきたいと考えています。熱中症予防のため、ご家庭でも「朝ごはん・十分な睡眠・水分補給」を意識していただきますよう、よろしくお願いします。

さて、6月は笠置峡での「カヌー体験」からスタートし、3,4年生の「飯地町浄水場見学」そして「プール掃除」と、水に関する行事が続きました。水と聞いて思い出すのが、平成6年（1994年）の木曽川水系の渇水です。当時は新米教師として働き始めてまだ数年目でしたが、学校のプールはもちろん、生活の中でも水の使用制限がかかり、大変苦労をしたことを思い出します。この恵那市でも同様に制限がかかったことと思います。2026年6月、笠置峡に豊かな水が流れ、その水の上で楽しそうにカヌーを漕ぐ子どもたちの様子を見ながら、水のありがたさを改めて感じました。

3,4年生の児童と一緒に、飯地町の水道水を送り出している浄水場も見学させていただきました。見学をしながら、子どもたちの表情がどんどん変わっていきます。水道をひねれば流れてくる「当たり前の水」が、「特別な水、大切な水」へと、その価値が変わった瞬間だと感じました。実際に目で見て、現場の方から話を聞いて、自分の頭でじっくりと考える。こんな体験をこれからもできるかぎり大切にしていきたいと考えています。

反面、水は時に恐ろしいものにも変化します。今年もすでに水の事故のニュースが後を絶ちません。水は楽しいのですが、水の恐ろしさを知った上で、安全に留意しながら水に関わることがとても大切です。

いよいよ本校でもプールでの水泳学習がスタートします。13人が楽しく、各自の泳力を伸ばす貴重な時間になることはもちろんですが、水の事故を防ぐための知識も同時に学べるよう、気持ちを引き締めて指導にあたりたいと考えています。

飯地小学校運営協議会コーナー 「地域の味・ふるさとの味 朴葉寿司づくりに挑戦！」

～地域ぐるみで育てたい姿『豊かな体験を通して、ふるさと飯地への愛着と誇りをもつ』～

渡邊真奈美さん、平井はな恵さんに「朴葉寿司」の作り方を教えて頂きました。酢飯の作り方から朴の葉に包む作業まで、子どもたちは興味津々。それはそれは美味しい朴葉寿司が完成しました。

「初めて作ったよ!」「朴の木が家のまわりにあるから、家でも作ってみたいな」「ピンクの粉、美味しくて魔法の粉みたい!」こんな声が聞こえてきました。

